

論 説

交通の調整

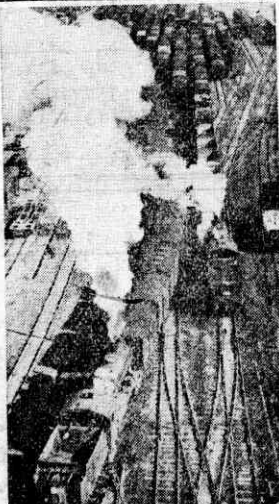
沼田政矩

近代の交通機関で話題にのぼるのは、海上の船舶、陸上の鐵道、同じく自動車、空中の飛行機である。これらはいずれもそれぞれの分野において急速な發達を遂げてきており、今後もその發展に期待をかけられている。自動車と飛行機の發達は近年ことに目覺しく、船舶、鐵道などはとかく壓倒され勝ちで、自動車などは鐵道に代つて、すべての陸上交通を單獨で處理しようと考えている様子さえ見える程であり、また、飛行機は速さは大きいとその積載量は小であるからといわれていたが1昨年から昨年にかけて、米英軍が行つた伯林の空輸作業など驚天動地の事柄が起つた。船舶、鐵道なども、これら新進の交通機関に對して、その頽勢を挽回しようとして、その車輛に、船體に、或はまた動力に種々の研究が爲され改善が行われつゝある。この劇しい競争の結果それぞれの機關そのものとしては誠に顯著な發達をしているのである。

しかし吾人は華かさのみに氣を奪われることなく靜かに顧みる必要がある。この陰には、徒らな競争と、交通機關間の連絡不十分という2大缺陷が存在しているのである。

各種の交通事業は、そのいずれも、はじめは亂立し、次に競争状態となり、終には收益低下、經營難により競争に堪えなくなり、合同または統一して合理化を目的とした獨占企業にすむ傾向を有する。交通機関はいずれも膨大な資本の固定を必要とするから、これらを自然の競争状態に放任しておいたのでは、經營者はもとより、社會一般の受ける不利は大なるものがある。よろしく各種交通機関の輸送分野の確立を計り、重複投資の弊などさけるべきである。海運を自然の經路とすべき貨物（例えば石炭）が、運賃の割引のために、鐵道に發到したり、採算を無視した自動車交通業の經營のために、鐵道が大打撃をこうむつたりする例が少くない。船舶、鐵道、自動車、飛行機などおのおの、その機能相互に關連發揮させてはじめて無理のない有效な交通効果が得られる。この綜合統制を忘れてはならないのである。

次に各種交通機関間の連絡についてであるが、例を高速鐵道による通勤にとれば、鐵道驛間における列車速度が大きくて、經過時間が小さいのに比較して、自宅ならびに目的地と鐵道驛との間の徒歩による時間の大きなこと、乗換驛での列車待合せ時間の無駄など、高速交通機関の效用を無にしていることが多い。また飛行機に乗るため、バスにて遠隔の飛行場に時間をかけて行くのも、何か割切れぬものがある。せつかく市街電車で、鐵道驛へ達しながら驛前廣場と稱する原野の片隅に降されて、重い荷物をさげ、長い時間（列車の走る時間にくらべて）を費し、歩道を通り、階段を上下しなければ、列車に乗れないこともある。荷物を例をとれば、嚴重な荷造りをし、荷車またはトラックに積込み、これを驛に運んで取卸し、一時ホームに留め置き、貨車の配備を得て、これに積込み列車で到着驛まで運び取卸し、こゝでまた荷車なりトラックに積込み荷受人のもとに運び取卸すというような七面倒臭い操作の間に費される手數と時間と經費との浪費は、本線上の列車運轉に比較すると實に大である。水陸の連絡においても同様で、港における荷役に豫想外の時間を要し、船舶は運航時間と停泊時間とが等しいものは好成績の部に入るといわれる位、動くべきものが動いていない状況にある。このように各種の交通機関の接觸部における施設ならびに作業の研究が今後の大問題の一つであることは争われぬ事實である。



第 2 卷

12 月 號 目 次

第 12 號

"輸送と生産能率" 特集號

口 繪	溶銑の運搬.....	1
	工場内荷役施設の諸々相.....	2
	石炭の荷役施設.....	3
	4
論 說	交通の調整.....沼田政矩	5
特 集	自動車輸送と道路構造.....星 桂 和	6
	貨物自動車輸送能力.....平 尾 收	12
	お茶ノ水驛の交通.....沼田政矩	16
	荷役設備の選定と經濟計算.....沼田政矩	16
亦木 英	20
	終端設備の構想.....石川 榮 耀	24
	輸出と包裝.....菅 谷 頼 道	26
	溶銑の輸送.....松下 幸 雄	29
	空氣輸送と水輸送.....東 渡 邊 平 一 郎	30
トピック	國內輸送とコンテナ.....片山 幸 作	11
技術史ノート	輸送の歴史.....村松 定次郎	34
生研ニュース	編集後記	